

## 育児における父親の役割に関する調査研究

### — 育児に関するアンケート結果のクロス集計(1) —

庄司順一<sup>1)</sup> 恒次欽也<sup>2)</sup> 川井 尚<sup>1)</sup> 吉田弘道<sup>3)</sup> 安藤朗子<sup>4)</sup>  
尾崎真理子<sup>5)</sup> 野尻 恵<sup>6)</sup> David Shwalb<sup>7)</sup> 大藪 泰<sup>8)</sup>  
森田英雄<sup>9)</sup> 倉繁隆信<sup>9)</sup> 横井茂夫<sup>10)</sup> 若麻績芳樹<sup>11)</sup> 西林洋平<sup>12)</sup>

キーワード：父子関係、父親の役割、育児、母親の就労、母子保健

#### 目的

本研究の目的は、育児における父親の役割を明確にし、保健指導に適用しうる知見を得ることである。その目的を達成するために、平成4年度から3カ年にわたって、幼児をもつ父母を対象に、質問紙による調査研究を行ってきた。その単純集計結果については、昨年度報告した。本最終報告では、まず第1報（本報告）で、父母の回答の比較、父母の年齢などの属性との関係を検討し、第2報では主要な項目と他の項目との関連についてクロス集計により検討を行った。

#### 対象および方法

対象：対象は、調査票を回収できた1150組の父母（夫婦）である。調査票は1600部配布したので、回収率は約72%であった。子どもの年齢は、平均4.4歳（範囲0歳～7歳）であった。29歳未満父親79名、母親156名（以下父親、母親の順に記す）、30～34歳316名と515名、35～39歳398名と339名、40歳以上324名と116名であつ

た。妻が就労しているかどうかの記載があったのが1033組であり、就労群（常勤またはパート）448組、非就労群（専業主婦）585組であった。

質問紙：育児における父親の役割、育児・家事への父親の参加の状況などに関する質問紙（「育児に関するアンケート」）を作成した。この質問紙は41項目からなり、項目の内容がほぼ対応している「父親用」と「母親用」とがある。父母それぞれに回答を依頼した。つまり、育児における父親の役割等について、自分自身の回答（自己評価）と、相手（配偶者）からみた回答（相手評価）とを得たわけである。質問項目には、このほか年齢、学歴、家族構成、母親の就労の有無などの属性を問うものが含まれている。

調査方法：幼稚園、保育園、保健所等において配布し、およそ1週間で回収した。記入にあたっては、父母それぞれで行い、相談したり、見せ合うことのないように求めた。なお、方法の詳細については前年度報告を参照されたい。

結果の整理：得られた回答について統計的分

1)日本総合愛育研究所・愛育相談所 2)愛知教育大学 3)こどもの城小児保健部 4)都立教育研究所  
5)都立梅ヶ丘病院 6)桜ヶ丘記念病院 7)光陵女子短期大学 8)早稲田大学 9)高知医科大学小児科  
10)都立母子保健院小児科 11)都立母子保健院産婦人科 12)たちばなクリニック

析を行ったが、単純集計結果については昨年度報告したので、今年度は、対象の属性との、および項目間のクロス集計を行った。ここでは、父母の回答の比較と、対象の属性とのクロス集計結果について述べる。

### 結果および考察

表1に、父母の回答の比較、父母の年齢・母親の就労の有無によるクロス集計結果( $\chi^2$ 検定)を示した。

#### 1 両親の回答の比較

両親の回答のちがいを検討すると、下位項目281のうち有意な差がみられたのは159、有意な差がみられなかったのは122であった。とくに明確な傾向としては、有意な差がみられなかった項目は、現在の子どもの性質(項目16)、現在子どものことで心配なことの内容(項目17)、子どもの最近のようす(項目15)、乳児期における父親の育児参加の具体的な内容(項目13)など、とくに子どもの現在の状態について、あるいは具体的な内容についてであった。逆に、自分(父親)や相手(母親)のようす、あるいは育児等についての考え方、子どもの乳児期のようすなどについては、父母の回答に有意な差がみられることが多かった。

次に、いくつかの重要と思われる項目について検討する。

母親の育児に対する自信(父親37.9%、母親11.1%、以下父親、母親の順に記す)や、母親(妻)の育児に対する安心感(45.7%、29.7%)は父親の方が高い。つまり、母親の自信のなさや不安感を父親は十分気づいていないのかもしれない。

自分と相手をそれぞれどのような親とみているかは、父母どちらも自己評価の方がきびしい傾向にあり、相手評価の方がよりポジティブにとらえているようであった。例えば、父親について、「怒りっぽい」(30.2%、22.7%、下線は自己評価)、「やさしい」(53.6%、66.0%)、

「たよりになる」(27.4%、42.4%)などと、ネガティブに思われる項目は父親自身の方が頻度が高く、ポジティブに思われる項目は母親による父親評価の方が頻度が高くなっていた。母親についても同ように、「口うるさい」(42.8%、65.2%)、「怒りっぽい」(37.7%、52.7%)、「きびしい」(28.1%、32.4%)、「干渉的」(6.6%、15.7%)、「やさしい」(55.8%、41.6%)、「たよりになる」(31.2%、20.1%)という結果であった。

父母の日頃のようすについては、「疲れている」は自己評価の方が頻度は高く(父親について:44.5%、39.6%;母親について:39.8%、51.3%)、「いらいらしがち」は相手評価の方が高かった(父親について:18.7%、48.5%;母親について:37.9%、14.9%)。「疲れている」と「いらいらしがち」とのちがいは、後者が対人関係(相手や子どもとの関係)の中で表される感情であることによるのであろう。

困ったときに相談できる人は、父母とも「配偶者」を高い頻度で選択している(85.4%、88.9%)が、全体に母親の方が多くの人とのサポートシステムをもっているといえる。例えば、自分の両親(43.0%、64.6%)、自分のきょうだい(16.7%、33.7%)、友人・知人(28.2%、64.5%)、幼稚園・保育園の先生(9.8%、34.8%)、子どもの友だちの親(2.5%、31.0%)、近所の人(3.8%、14.6%)などであった。ただ、「職場の友人」は父親の方が多かった(14.5%、9.2%)。

以上を要約すると、両親の回答を比較すると、現在の子どもの性質、最近の子どものようす、乳児期における父親の育児参加の状況など、とくに子どもの現在の状態、あるいは具体的な内容については父母の間で差はみられなかった。これに対して、相手(配偶者)のようす、あるいは育児についての考え方などについては父母の間で有意な差がみられることが多かった。したがって、子どもや育児、あるいは親としての考え方、見方を問う場合には、一方の親だけで

なく、父母それぞれを対象とする必要があるといえる。

## 2 父親・母親の年齢との関係

年齢とのクロス集計を行った281項目のうち、有意な差がみられたのは、父親では58項目、母親では56項目であった。したがって、全体的にみれば、年齢による大きな影響は認められないようであるが、以下に詳しく検討する。

項目1：父親の休日のすごしかたには、父親自身の回答でも母親の評価でも、年齢による差は認められなかった。

項目2：子どもとのかかわりをどの程度するかについては、父親の回答では、「いっしょに夕食をとる」「絵本の読み聞かせ」「ふろにされる」の3項目で有意な差がみられ、いずれも父親の年齢が高くなるにつれて頻度が減少していた。

母親がみた父親と子どもとのかかわりは、「あやしたり遊び相手になる」「身の回りの世話をする」「ふろにされる」の3項目で有意な差がみられ、いずれも年齢が高くなるほど頻度が減少していた。

父親と子どもとの具体的なかかわりは、年齢がすすむほど量的には減少する傾向があることを、父母ともに認めている。

項目3：父親が子どもの相手をすることに積極的であるか否かについては、父母どちらの回答も、年齢による差は認められなかった。

項目4～6：母親の育児への自信の有無、母親の育児への安心感、母親は父親に子どもを任せられるかということについても、同様であった。

項目7：どのような父親かということについて、父親の自己評価では、「きびしい」「怒りっぽい」「叱れない」の3項目で有意な差が認められ、年齢が高くなるにつれてきびしい、怒りっぽいとはみなくなっている。叱れないについても同様の傾向がみられるが該当数が少ない。

父親を母親はどのようにみているかは、「怒

りっぽい」「やさしい」「頼りになる」「友達のように」「叱れない」「その他」の6項目で有意な差がみられた。年齢とともに、怒りっぽい、友達のようにが低下し、やさしい、頼りになるが高くなっている。

項目8：どのような母親かについて、まず母親の自己評価では年齢による差は認められなかった。父親の評価では、「怒りっぽい」と「友達のように」の2項目で有意な差がみられた。すなわち、両項目とも年齢とともに頻度は低下していた。

項目7、8をみると、どのような親であるかということについて、年齢による変化はそれほど多くはみられないが、年齢とともに怒りっぽいという回答の頻度が低下している。年齢が高くなるほど、精神的におちついてくるのであろうか。もう1つ興味深い点は、自己評価よりも、相手評価の方が、年齢による変化を指摘していることであり、しかもより肯定的な方向への変化を示していると考えられことである。

項目9は、子育ての目標についてであるが、11項目のうち、「独り立ちしていけるように」という1項目だけに有意な差がみられた（母親では「その他」も有意な差がみられるが）。父母ともに、年齢が高いほど、子どもの独り立ちを願うことが多くなるようである。

項目10：父親の日頃の様子については、父親の自己評価では「心身不調」にのみ有意な差がみられた。ここでは、30～34歳が心身不調の率が高くなっているが、該当数がやや少ない。母親のみるところでは、「きちょうめん」に差がみられた。しかし、年齢にともなう一貫した傾向ではなかった。

項目11：母親の日頃の様子については、母親の自己評価では、「いらいらしがち」「きまじめ」「のんびりしている」の3項目に有意な差がみられた。きまじめは年齢とともに高くなっているが、いらいらしがちは30～34歳がもっとも頻度が高く、のんびりしているは逆に低くなっていた。父親のみるところでは、「ゆううつで

ある」「のんびりしている」「心身快調」の3項目に有意な差がみられた。ゆううつであるは年齢とともに低下していたが、のんびりしているは母親の自己評価と同様に30～34歳がもっとも低くなっていた。

項目10および11をあわせて考えると、父母ともに30歳代前半は心身不調になりやすいように思われる。

項目12：父親が育児に参加することを母親はどのように思うかは、父母ともに年齢による差がみられた。しかし変化の仕方が父母では異なり、「全面的に協力してほしいと思っている」は父親では30歳代後半にピークがあるのに対して、母親では20歳代にピークがあり、年齢とともに低下している。

項目13：子どもが乳児のときの父親の育児参加については、「食事の世話」「妻の相談相手」「他の家族の世話」の3項目に有意な差がみられた。いずれも、年齢が高いほど頻度が高くなっている。他方、父親の育児参加について母親がみたところでは、「食事をつくる」「掃除洗濯をする」「子どもと留守番をする」の3項目で有意な差がみられた。あまり一貫した変化にはなっていないが、全体として、年齢が高いほど頻度も高くなっている。

項目14：父親の家族への協力の仕方については、父親では「重要なことがらを最終決定する」のみで有意な差がみられた。すなわち、年齢が高いほど頻度が高くなっている。母親のみとところでは、「特にしていない」に有意な差がみられ、20歳代が頻度が高く、30歳代前半が低くなっていた。

項目15：子どもの最近のようすについては、父親では「怒りやすい」「気分がかわりやすい」「よく理解できない」「疲れている」「話があわない」「友達と上手につきあう」の6項目で有意な差がみられた。いずれの項目においても、父親の年齢が高いほど「そうは思わない」とする頻度が高くなる傾向がみられた。母親では「怒りやすい」「疲れている」「話があわない」「友

達と上手につきあう」の4項目で有意な差がみられた。傾向は父親の場合と同じであった。

項目16：子どもの性質については、父親では19項目中9項目で有意な差がみられたが、年齢にともない比較的一貫した変化を示していたのは、「泣き虫」「神経質」「しつこい」であり、父親の年齢が高いほど頻度は低くなっていた。母親では5項目に有意な差がみられたが、「泣き虫」「神経質」「落ち着きない」「しつこい」「こわがり」とも母親の年齢が高いほど頻度が低くなっていた。父母ともに、年齢が高い方が、子どものことを肯定的にとらえるように思われる。

項目17：子どもの癖など、困っていることや心配なことについては、父親では年齢による差はみられなかった。母親では年齢が高いほど「指しゃぶり」の選ばれる頻度は低く、「特にない」の頻度が高くなっていた。

項目19：困ったときに相談できる人については、父親では「両親」は年齢が高いほど頻度が低下していた。「職場の友人」も同様であった。「自分のきょうだい」「子どもの友達の親」は一貫した変化ではなかった。「妻」は年齢にかかわらずもっとも多く選ばれていた。母親では「両親」はやはり年齢が高いほど頻度が低くなっていた。「近所の人」も同様であった。「夫」には年齢による有意な差がみられたが、しかし一貫した変化ではなかった。

項目20：子どもの心配な行動に対して、相談に必要な人・機関については、父母ともに年齢が高いほど「公立の児童相談所・教育相談所」の頻度が高くなっていた。

項目21：相談機関の開設条件については、父母ともに年齢によるちがいはあまりなく、有意な差がみられたのは、父親で「夜6時以降開設している」が年齢が高いほど頻度が低くなっていることだけであった。

項目22：子どものことで相談にでかけるときは母親（父親）といっしょにでかけるかということについては、父母ともに有意な差はみられ

なかった。

項目23：相談を希望する子どもの状態については、父親では「重い病気」が年齢が高いほど頻度は低かった。母親では「理解しにくい行動がある」は年齢が高いほど頻度が高く、「子育てに悩んでいるとき」は頻度が低くなっていた。

項目24：これまでに活用した育児情報源については、父親では「医師（小児科医）」のみ年齢によるちがいがみられ、年齢が高いほど頻度が高くなっていた。母親では、4項目で有意な差がみられたが、「育児雑誌」は年齢が高いほど頻度は低く、「友人・知人」「祖父母」は一貫した変化ではなく、「特にない」は年齢が高いほど頻度が高い傾向が認められた。

項目25：子育てのために必要な情報源については、父母ともに年齢によるちがいは認められなかった。

項目26～28：家庭内で重大なことを決める人、家庭の雰囲気、父親（母親）と気持ちが通じ合っているかについては、父母ともに、年齢によるちがいは認められなかった。

項目29：育児についての考え方が父母でちがったときの対応については、母親では年齢によるちがいは認められなかったが、父親では有意な差がみられた。すなわち、「妻にまかせる」は40歳以上でやや多く、「自分の思うとおりにする」は20歳代で多く、「話し合って調整する」は30歳代で多くなっていた。

項目30～31：乳幼児健診にでかけたこと、子育て教室への参加については、父母ともに年齢による差は認められなかった。

項目32：自分が子どもの頃、父親が相手をしてくれたかについては、父母ともに年齢による差がみられたが、父親では「よく遊んでくれた」は年齢が高いほど頻度が低く、母親では一貫した変化ではなかった。

項目34：自分が子どもの頃の母親については、父親では年齢による差は認められず、母親では有意な差はみられたが、あまり一貫した変化ではなかった。

項目33、35：自分の同性の親を親としての手本としたいかについては、父母ともに年齢による差は認められなかった。また、自分の両親を自分たち夫婦の手本としたいかということについても同様であった。

項目36：自分が育ったような家庭を築いていきたいかということについては、父親では年齢による差がみられた。「そう思う」は年齢が高いほど頻度が高くなっていた。

項目37：母親は子どものことは自分にしか分からないかと思っているかということについては、父母ともに、年齢による差は認められなかった。

項目40：自分が育ってきた家庭の雰囲気については、父母ともに17項目中3項目に有意な差がみられた。父親では「あたたかい」「やさしい」「のんびり」はいずれも年齢が高いほど頻度が高くなっていた。母親では「あたたかい」は年齢が高いほど頻度が高くなっていた。しかし、「重たい」は一貫した変化ではなく、「からい」は該当数が少なかった。

項目41：父親の固有の役割については、父親では15項目中5項目に、母親では2項目に年齢による差がみられた。父親では、「子どもの自立の手助け」「客観的な立場にたって母子の関係を援助」が年齢が高いほど高くなっていた。「日常生活全般にわたって主導的役割を担う」は20歳代が高く、次いで40歳以上で、30歳代が低くなっていた。その他の項目では一貫した変化ではなかった。母親では、「父親だけの固有の役割はない」が年齢が高いほど頻度が高くなっていた。「日常生活全般にわたって主導的役割を担う」は父親と同じく30歳代が低くなっていた。

以上を要約すると、全体としては、父母の年齢による大きな影響は認められないように思われた。ただ、父親と子どもとの具体的なかわり、父親の年齢がすすむほど量的には減少する傾向があることを父母ともに認めていた。自分あるいは相手をどのような親とみているかは、父母ともに、年齢が高くなるほど、「怒りっぱ

い」「友達のように」が減少する傾向がみられ、年齢とともに精神的にはおちついてくることが示唆された。子どもをどのようにとらえているかについてもほぼ同様の傾向がうかがわれ、父母の年齢が高くなるほど子どもを肯定的にとらえるようになることが示唆された。

### 3. 妻の就労との関係

妻の就労は、就労群（常勤＋パート）と非就労群（専業主婦）とに分けたが、就労の有無と各項目への回答とのクロス集計を行った281項目のうち、有意な差がみられたのは、父親では44項目、母親では64項目であった。したがって、全体的にみれば、妻の就労の有無による大きな影響は認められないようであるが、項目によってかなり顕著な傾向がみられている。以下に詳しく検討する。

項目1：父親の休日のすごしかたには、父親の回答でも母親の評価でも、妻の就労の有無による差が認められた。すなわち、就労群の方が、父親は家事を手伝うことが多く（就労群15.6%、非就労群8.0%、以下、就労群、非就労群の順に示す）、家でのおんびり（25.0%、29.1%）、家族と外出（18.3%、25.5%）は少ない。妻の夫評価でも同様であった（家事を手伝う19.9%、8.6%；自分の趣味をする15.8%、21.5%；家族と外出19.9%、27.3%）。

項目2：子どもとのかかわりをどの程度するかについては、父親・母親の回答とも、ほとんどの項目で有意な差がみられ、いずれも就労群の父親の方が「ほぼ毎日」する頻度が高くなっていた。

父親と子どもとの具体的なかかわりは、妻が就労している場合には非就労群（専業主婦）と比べて、明らかに多いことを、父母ともに認めている。

項目3：父親が子どもの相手をすることに積極的であるか否かについては、父母どちらの回答も、妻の就労の有無との関連は認められなかった。父親が子どもの相手を積極的にする場合の

理由は、妻の就労の有無とはほとんど関連が認められなかったが、「妻まかせにはしてはいけないと思うから」はやや就労群の父親に多かった（7.7%、3.2%）。妻の夫評価では「ほかに相手をする人がいないから」はやや就労群の父親に多かった（6.2%、2.9%）。父親が子どもの相手をあまり積極的にしない場合の理由は、やはり妻の就労の有無とはほとんど関連が認められなかったが、父親の回答で「子どもの相手は疲れるから」は就労群では少なかった（2.6%、5.4%）。

項目4～6：母親の育児への自信の有無、母親の育児への安心感、母親は父親に子どもを任せられるかということについても、同様に妻の就労の有無との関連は認められなかった。

項目7：どのような父親かということについて、父親の自己評価では、妻の就労との関連はほとんどの項目で認められなかった。ただ「あまり関心がない」のみ就労群の方が低かった（1.1%、3.7%）。しかし、母親の夫評価では12項目中5項目に有意な差が認められ、「口うるさい」（55.2%、72.7%）、「怒りっぽい」（47.9%、56.4%）、「干渉的」（13.2%、18.5%）、「あまい」（30.5%、24.2%）など、就労群の父親の方がネガティブではなかった。

項目8：どのような母親かについて、まず母親の自己評価では就労の有無との関連はほとんど認められず、「口うるさい」のみ就労群の方が高かった（21.8%、16.6%）。父親による妻の評価では、「口うるさい」（38.0%、46.0%）と「きびしい」（24.4%、31.0%）の2項目で有意な差がみられたが、いずれも就労群の妻の方がポジティブにとらえられていた。

項目7、8をみると、どのような親であるかということについて、妻の就労の有無との関連はそれほど多くはみられないが、一部の項目で、就労群の母親では自己評価がきびしく、その夫は逆に就労している妻をポジティブにとらえていた。

項目9：子育ての目標については、11項目のうち、父親の回答では妻の就労との関連は2項

目で、母親の回答では1項目で有意な関連が認められたにすぎない。すなわち、就労群の父親は「健康であるように」(79.8%、84.7%)、「常識ある社会人となるように」(60.9%、67.1%)、母親は「常識ある社会人となるように」(62.2%、70.1%)の項目でいずれも就労群の頻度がやや低くなっていた。

項目10：父親の日頃の様子については、父親の自己評価および母親の夫評価とも16項目のうち1項目で母親の就労との関連が認められただけであった。すなわち、父親の自己評価では「きまじめ」(10.1%、15.8%)が就労群の方が頻度は低く、母親の夫評価では「いらいらしがち」(17.8%、12.8%)の頻度が高かった。全体としては、妻の就労の有無と父親の日頃の様子とはあまり関連がないといえるだろう。

項目11：母親の日頃の様子については、母親の自己評価では4項目に、夫の妻評価では2項目に有意な差がみられた。すなわち、母親の自己評価では「疲れている」(48.8%、33.1%)、「心配性」(27.9%、37.1%)、「きちょうめん」(13.2%、18.0%)、「ゆううつである」(2.6%、5.7%)と、非就労群(専業主婦)の方がネガティブな状況にあるように思われる。夫の妻評価では「疲れている」(49.5%、33.1%)、「心身快調」(20.0%、31.0%)と、就労群の母親の身体的な疲労が大きいことを示唆している。

項目10および11をあわせて考えると、就労している母親の身体的な疲労と、専業主婦の心理的な困難感が指摘されるようであり、こうしたことへの対応が望まれる。

項目12：父親が育児に参加することを母親はどのように思うかは、父母ともに、妻が就労している場合には全面的な協力(父親の評価57.6%、母親の評価58.5%)を、専業主婦の場合には一部の援助(父親50.8%、母親55.0%)を求めていることが多かった。

項目13：子どもが乳児のときの父親の育児参加については、母親の就労の有無との関連が多く認められた。まず父親の自己評価によれば、

「おしめかえ」(就労群48.4%、非就労群38.9%)、「ねかしつける」(36.7%、29.2%)、「食事の世話」(24.6%、16.3%)「送迎する」(24.2%、16.3%)、「掃除洗濯をする」(21.3%、9.6%)、「食事をつくる」(13.2%、7.6%)で有意な差が認められた。他方、母親の夫評価によれば、「おしめかえ」(48.6%、38.1%)、「着替えの手伝い」(45.5%、31.5%)、「ねかしつける」(33.6%、23.8%)、「食事の世話」(27.3%、16.4%)、「掃除洗濯をする」(26.4%、10.7%)、「送迎する」(23.5%、15.6%)、「食事をつくる」(13.6%、8.6%)、「他の家族の世話」(11.9%、7.4%)の項目で有意な差が認められた。父親、母親とも有意な差が認められなかったのは、「お風呂に入れる」「子どもと留守番」「妻の相談相手」などであった。このように、子どもが乳児のときの父親の育児参加は、父親の自己評価でも、母親の夫評価でも、就労群の夫は非就労群の夫よりもはるかに多くの活動に参加しているといえる。

項目14：父親の家族への協力の仕方については、父親の自己評価では「家事などを手伝う」(45.7%、27.9%)、「子どもの身の世話をする」(21.8%、13.6%)は就労群の方が高かったが、「家族の相談相手になる」(24.2%、35.1%)、「重要なことがらを最終決定する」(29.2%、40.1%)は非就労群の方が高くなっていた。すなわち、就労群の父親は育児・家事への参加が家族への協力ということになるのに対し、非就労群では相談・決定というような役割を果たしているようである。母親による夫評価でもほぼ同様の傾向がみられた。就労群の父親は「家事などを手伝う」(41.1%、24.2%)、「子どもの身の世話をする」(26.4%、14.3%)が多く、非就労群の父親は「仕事にうちこむことで協力する」(32.7%、43.0%)が多いといえる。

項目15：子どもの最近の様子については、父母とも子どもが3歳未満ではほとんど母親の就労の有無による差は認められなかった。子ど

もが3歳以上の場合には父母ともに「疲れている」(以下「あまり思わない+思わない」の頻度、父親：就労群46.8%、非就労群54.7%、母親：就労群46.2%、非就労群44.6%)、「話があわない」(父親：47.5%、53.9%、母親：58.7%、61.2%)、「友達と上手に付き合う」(父親：36.3%、43.1%、母親：37.8%、42.3%)と、非就労群の父母の方がやや「そうは思わない」が多くなっていた。

項目16：子どもの性質については、父親では19項目中3項目に、母親では1項目に有意な差がみられただけであり、全体として、母親の就労の有無との関連は顕著ではなかった。父親の評価では、「甘えん坊」(69.5%、62.9%)、「神経質」(21.1%、15.9%)は就労群でやや高く、「のんびり」(13.0%、18.8%)は非就労群でやや高くなっていた。母親の評価では「甘えん坊」(76.5%、64.4%)のみ就労群の方が高くなっていた。

項目17：子どもの癖など、困っていることや心配なことについては、父母ともに母親の就労の有無との関連はほとんど認められなかった。父親では「保育園・幼稚園等にいきたがらない」(3.1%、1.2%)、「小食」(9.7%、14.9%)、母親では「つめかみ」(5.3%、8.9%)に若干の差が認められたにすぎない。

項目18：子どもの乳児期のようすについては、父母ともに、母親の就労の有無との関連は認められなかった。

項目19：困ったときに相談できる人については、父母で回答にちがいがみられた。父親では母親の就労の有無との関連はほとんど認められなかったが、母親では就労の有無との関連が多くみられた。まず父親については、「友達・知人」(32.5%、24.8%)、「幼稚園・保育園の先生」(14.1%、6.9%)は就労群の方が多く選択していた。次に母親については、「幼稚園・保育園の先生」(42.0%、27.9%)、「医師」(19.1%、13.1%)、「職場の友人」(22.4%、0.2%)は就労群の方が高く、「子どもの友達の親」

(21.8%、36.6%)、「近所の人」(10.3%、17.3%)は非就労群の方が高くなっていた。母親は、就労の有無によって、それぞれの身近なところでの相談相手を得ているといえよう。配偶者や自分たちの親やきょうだいなどを選択する率は母親の就労の有無とは関連が認められなかった。

項目20：子どもの心配な行動に対して、相談に必要な人・機関については、父親では妻の就労の有無との関連は認められなかった。母親では「職場の相談室」(3.3%、0.2%)は就労群にやや高く、「心理カウンセラー」(26.8%、34.4%)は非就労群に高かった。

項目21：相談機関の開設条件については、父親では妻の就労の有無によるちがいは認められなかった。これに対して母親では就労の有無によって顕著なちがいが認められた。すなわち、「日曜・祭日に開設」(48.8%、29.7%)、「土曜に開設」(25.9%、12.8%)、「夜6時以降の開設」(22.2%、6.0%)、「職場がそのための休みをくれる」(19.1%、2.3%)と、相談にいきやすい条件の整備を求めている。逆に「とくに条件はない」(27.9%、56.0%)は就労群では約1/4にすぎなかった。

項目22：子どものことで相談にでかけるときは母親(父親)といっしょにでかけるかということについては、父親では母親の就労の有無によるちがいは認められなかったが、母親では「夫といっしょに」(52.9%、45.1%)は就労群に多くなっていた。

項目23：相談を希望する子どもの状態については、父母ともに母親の就労の有無との関連は認められなかった。

項目24：これまでに活用した育児情報源については、父親では妻の就労の有無との関連は認められなかった。母親では「育児雑誌」(56.0%、63.6%)、「育児番組」(38.0%、47.7%)は非就労群が多くなっていた。

項目25：子育てのために必要な情報源については、父親で「育児・しつけに関すること」(26.6%、34.6%)に就労の有無によるちがいが認



められたが、全体としては父母ともに母親の就労の有無との関連はほとんど認められなかったといえよう。

項目26：家庭内で重大なことを決める人については、父親では妻の就労との関連は認められなかったが、母親では「妻」(33.3%、25.8%)、「夫」(59.1%、67.7%)と、就労群では妻の発言力が大きいようである。

項目27：家庭の雰囲気については、父親では妻の就労との関連は認められなかったが、母親では、「よい」(30.8%、35.3%)、「あまりよくない」(5.5%、2.5%)と、非就労群の方がよいとするものが多くなっていた。

項目28：父親(母親)と気持ちが通じ合っているかについては、父母ともに、母親の就労の有無との関連は認められなかった。

項目29：育児についての考え方が父母でちがったときの対応については、母親では就労の有無との関連は認められなかったが、父親では、「妻にまかせる」(23.3%、20.9%)、「自分の思うようにする」(12.4%、7.2%)、「話し合う」(61.1%、66.8%)となっており、非就労群では話し合うことが多く、就労群では妻にまかせるか、父親が思うとおりにするが多くなっていた。

項目30：乳幼児健診にでかけたことについては、父母ともに、母親の就労の有無とでちがいが認められた。父親では「自分だけでいったことがある」(7.4%、0.5%)、「送迎だけした」(12.7%、17.3%)と就労群の父親の方が積極的であった。母親でも同様の結果であった。

項目31：子育て教室への参加については、父親では、母親の就労の有無との関連は認められなかった。母親では「夫とともに参加したい」(23.3%、17.7%)、「父親教室があればよい」(11.1%、15.0%)と、就労群の母親は父親といっしょの参加を望んでいた。

項目32：自分が子どもの頃、父親が相手をしてくれたかについては、「よく遊んでくれた+ときどき遊んでくれた」が父親の回答では妻就

労群48.4%、非就労群55.7%、母親の回答では就労群59.5%、非就労群66.4%と、父母ともに、妻が専業主婦の方が子どものときに父親と遊んでもらったとしている。

項目33～37：自分の父親を父親としての手本にしたいか、自分が子どもの頃の母親はどのようなであったか、両親を自分たち夫婦の手本にしたいか、自分の育った家庭のような家庭を築きたいか、母親にしか子どものことは分からないかについては、父母ともに、母親の就労の有無との関連は認められなかった。

項目40：自分が育ってきた家庭の雰囲気については、父親では17項目中1項目に、母親では2項目に有意な差がみられたにすぎなかった。すなわち、父親では「あたたかい」(38.0%、44.5%)となっており、母親では「あたたかい」(50.8%、58.2%)、「きびしい」(48.1%、40.8%)と、妻が就労している方がややきびしくとらえることが多いようである。しかし、他のほとんどの項目で有意な差がみられなかったことに留意しなければならない。

項目41：父親の固有の役割については、父親では15項目中6項目に、母親では7項目に母親の就労の有無による差が認められた。父親では、「父親としても育児、家事をはたす」(37.6%、30.0%)は妻が就労している群で高かったが、「仕事をとおして家庭に貢献する」(65.9%、77.7%)、「子どもの自立の手助け」(66.2%、72.0%)、「妻の相談相手になる」(62.4%、69.1%)、「最終決断をください」(29.5%、36.7%)、「客観的な立場にたって母子の関係を援助」(28.1%、36.1%)は非就労群の方が高かった。母親の考えでは、「父親としても育児、家事をはたす」(51.6%、37.1%)、「父親だけの固有の役割はない」(7.9%、4.4%)は就労群に高く、「妻の相談相手になる」(75.6%、82.7%)、「仕事をとおして家庭に貢献する」(62.9%、78.2%)、「家族全体を包むように見守っていく」(60.4%、70.5%)、「客観的な立場にたって母子の関係を援助」(35.6%、44.0%)、

「最終決断をください」(20.9%、30.7%)は非就労群の方が高くなっていた。

以上を要約すると、母親が就労している場合には、母親は具体的な育児・家事への支援を求め、専業主婦では精神的な支えを多く求めており、父親もこれに応えているといえよう。

#### 要 約

幼児をもつ1150組の父母を対象に、育児における父親の役割を中心に、父親の子どもとのかかわり、自分および相手(配偶者)をどのような親とみるか、子どもの現在のようす、子どものことでの相談など、41項目からなる質問紙調査を実施した。本報告では、父母の回答の比較、父母の年齢・母親の就労の有無との関係を $\chi^2$ 検定により検討した。

その結果、両親の回答を比較すると、とくに子どもの現在の状態、あるいは具体的な内容に

ついては父母の間で差はみられなかったが、相手(配偶者)のようす、あるいは育児についての考え方などについては父母の間で有意な差がみられることが多かった。

父母の年齢との関係を見ると、全体としては、父母の年齢による大きな影響は認められないようであった。ただ、父親と子どもとの具体的なかかわりは父親の年齢がすすむほど量的には減少する傾向があること、子どもや自分あるいは相手をどのようにとらえるかは年齢とともに肯定的な回答が多くなり、精神的にはおちついてくることが示唆された。

母親の就労の有無との関係については、就労している場合には、母親は具体的な育児・家事への支援を求め、専業主婦では精神的な支えを多く求めており、父親もこれに応えていることが示唆された。

表1 父母の回答の比較と、父母の年齢・母親の就労の有無によるクロス集計結果 ( $\chi^2$ 検定)

項目	両親の一致	年齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
1 父親の休日の過ごし方	**	-	-	**	***
2 父親と子どもとのかかわり					
a 一緒に朝食をとる	**	-	-	*	***
b 一緒に夕食をとる	-	***	-	*	***
c あやす、遊び相手になる	-	-	***	***	**
d 絵本を読み聞かせる	***	*	-	**	-
e 身の回りの世話をする	***	-	**	***	***
f おふろに入れる	-	**	***	*	**
g 子どもと二人だけで外出(買い物、散歩等)	-	-	-	**	**
3 a 子どもの相手をする事への積極性	**	-	-	-	-
3 b 積極的な場合の理由					
1 他に相手をする人がいないから	***	-	-	-	*
2 子どもにいろいろなことを教えたいから	-	-	-	-	-
3 妻にいられているから	***	-	-	-	-
4 子どもが好きだから	***	-	-	-	-
5 妻まかせにしてはいけないと思うから	-	-	-	**	*
6 子どものことが心配だから	-	-	-	-	-
7 仕事よりも子どもの養育の方が大切だと思う	-	-	-	-	-
8 その他	-	-	-	-	-
3 c 積極的でない場合の理由					
1 世話をする必要のない年齢になったから	-	-	-	-	-
2 子どものことにあまり関心がないから	**	-	-	-	-
3 妻にまかせる方がよいと思うから	***	-	-	-	-
4 妻が望まないから	-	-	-	-	-
5 仕事が忙しいから	-	-	-	-	-
6 子どものほうが忙しいから	-	-	-	-	-
7 仕事以外の活動や趣味で忙しいから	-	-	-	-	-
8 妻と子どもの間に入り込む余地がないから	-	-	-	-	-
9 子どもの相手は疲れるから	***	-	-	*	-
10 その他	-	-	-	-	-
4 妻の育児に対する自信	***	-	-	-	-
5 妻の育児への安心感	***	-	-	-	-
6 妻は夫に子どもを任せられると思っているか	***	-	-	-	-

\*\*\*  $p < .001$     \*\*  $p < .01$     \*  $p < .05$     - n. s.

表1 (続き)

項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
7 自分(夫)はどのような父親か					
1 きびしい	—	*	—	—	—
2 怒りっぽい	***	*	***	*	**
3 口うるさい	—	—	—	—	***
4 やさしい	***	—	*	—	—
5 あまい	—	—	—	—	*
6 たよりになる	***	—	***	—	—
7 がんこ	—	—	—	—	—
8 あまり関心がない	***	—	—	*	—
9 干渉的	—	—	—	—	*
10 友達のように	—	**	—	—	—
11 叱れない	***	***	**	—	—
12 その他	—	—	*	—	*
8 自分(妻)はどのような母親か					
1 きびしい	*	—	—	*	—
2 おこりっぽい	***	*	—	—	—
3 口うるさい	***	—	—	*	*
4 やさしい	***	—	—	—	—
5 あまい	*	—	—	—	—
6 たよりになる	***	—	—	—	—
7 がんこ	—	—	—	—	—
8 あまり関心がない	—	—	—	—	—
9 干渉的	***	—	—	—	—
10 友達のように	**	**	—	—	—
11 叱れない	*	—	—	—	—
12 その他	—	—	—	—	—

表1 (続き)

項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
9 子育ての目標					
1 毎日が幸せであるように	***	-	-	-	-
2 健康であるように	**	-	-	*	-
3 楽しく子どもとつきあう	***	-	-	-	-
4 子どもを理解したい	***	-	-	-	-
5 独り立ちしていけるように	*	***	***	-	-
6 常識ある社会人となるように	-	-	-	*	**
7 早く子離れしたい	***	-	-	-	-
8 身の回りの世話をする	***	-	-	-	-
9 あそばせる	-	-	-	-	-
10 しつけをする	**	-	-	-	-
11 その他	-	-	*	-	-
10 父親の日頃の様子					
1 疲れている	*	-	-	-	-
2 意欲がない	-	-	-	-	-
3 いらいらしがち	***	-	-	-	*
4 ゆううつである	-	-	-	-	-
5 きちようめん	-	-	*	-	-
6 心配性	***	-	-	-	-
7 居場所がない	***	-	-	-	-
8 悲観的である	***	-	-	-	-
9 きまじめ	-	-	-	**	-
10 食欲がない	-	-	-	-	-
11 熟睡できない	***	-	-	-	-
12 淋しい	*	-	-	-	-
13 冷静である	***	-	-	-	-
14 のんびりしている	-	-	-	-	-
15 心身快調	-	-	-	-	-
16 心身不調	-	**	-	-	-

表1 (続き)

項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
1 1 母親の日頃の様子					
1 疲れている	***	-	-	***	***
2 意欲がない	**	-	-	-	-
3 いらいらしがち	***	-	*	-	-
4 ゆうつである	-	*	-	-	*
5 きちょうめん	-	-	-	-	*
6 心配性	***	-	-	-	**
7 居場所がない	***	-	-	-	-
8 悲観的である	***	-	-	-	-
9 きまじめ	**	-	*	-	-
10 食欲がない	-	-	-	-	-
11 熟睡できない	**	-	-	-	-
12 淋しい	***	-	-	-	-
13 冷静である	***	-	-	-	-
14 のんびりしている	-	**	***	-	-
15 心身快調	-	*	-	***	-
16 心身不調	-	-	-	-	-
1 2 父親が育児に参加することへの母親の考え	-	***	***	**	***
1 3 父親の育児参加					
1 おめしかえ	-	-	-	**	***
2 食事の世話	-	*	-	***	***
3 お風呂にいれる	-	-	-	-	-
4 ねかしつける	*	-	-	*	***
5 着替えの手伝い	-	-	-	-	***
6 食事をつくる	-	-	*	**	*
7 掃除洗濯をする	-	-	*	***	***
8 子どもと留守番	***	-	**	-	-
9 妻の相談相手になる	***	*	-	-	-
10 送迎する	-	-	-	**	**
11 買い物に行く	*	-	-	-	-
12 他の家族の世話	***	**	*	-	*
13 あまりしない	-	-	-	-	-
14 その他	-	-	-	-	-

表1 (続き)

項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
14 父親の家族への協力の仕方					
1 仕事にうちこむことで協力する	-	-	-	-	***
2 家事などを手伝う	*	-	-	***	***
3 家族の相談相手になる	***	-	-	***	-
4 重要なことがらを最終決定する	-	**	-	***	-
5 子どもと遊ぶ	*	-	-	-	-
6 子どもの身の世話をする	-	-	-	***	***
7 特にしていない	*	-	**	-	-
8 その他	-	-	-	-	-
15 子どもの最近のようす					
a 活発である	-	-	-	-	-
b 生き生きしている	-	-	-	-	*
c 楽しそうである	-	-	-	-	-
d 怒りやすい	**	***	***	-	-
e 気分が変わりやすい	***	***	-	-	-
f よく理解できない	-	*	-	-	-
g 精神状態は良い	-	-	-	-	-
h 身体状態は良い	-	-	-	-	-
i 疲れている	***	***	***	***	***
j 話があわない	***	***	***	***	***
k 友達と上手につき合う	-	***	**	***	***
16 子どもの性質					
1 あかるい	-	-	-	-	-
2 元気	-	*	-	-	-
3 内気	-	*	-	-	-
4 泣き虫	-	**	**	-	-
5 甘えんぼう	-	-	-	*	***
6 おしゃべり	-	*	-	-	-
7 神経質	-	***	**	*	-
8 のんびり	**	-	-	*	-
9 落ち着きない	-	***	***	-	-
10 心配性	*	-	-	-	-
11 がんこ	-	-	-	-	-
12 きちょうめん	-	-	-	-	-
13 完全癖	-	-	-	-	-

表1 (続き)

項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
14しつこい	—	***	*	—	—
15暗い	—	***	—	—	—
16こわがり	—	—	*	—	—
17ひとみしり強い	—	—	—	—	—
18よくわからない	—	—	—	—	—
19その他	*	*	—	—	—
17 子どものことでの心配なこと					
1 指しゃぶり	—	—	*	—	—
2 おねしょ	—	—	—	—	—
3 いうことを聞かない	—	—	—	—	—
4 友達と上手に遊べない	—	—	—	—	—
5 乱暴	—	—	—	—	—
6 偏食	—	—	—	—	—
7 泣き虫	—	—	—	—	—
8 保育園・幼稚園等にいきたがらない	—	—	—	*	—
9 外ではしゃべらない	—	—	—	—	—
10 男(女)の子らしくない	—	—	—	—	—
11 ひどくこわがる	—	—	—	—	—
12 少食	—	—	—	*	—
13 ひどく落ち着きがない	—	—	—	—	—
14 つめかみ	***	—	—	—	*
15 発音が聴き取りにくい	—	—	—	—	—
16 その他	***	—	—	—	—
17 特になし	—	—	**	—	—
18 乳児期のようす					
a 眠り	***	***	*	—	—
b 泣くこと	***	***	***	—	—
c 母乳やミルクの飲み具合	***	*	—	—	—
d 育てやすさ	***	**	***	—	—
e 歩き始め	***	—	—	—	—
f ことばをしゃべりだした時期	***	—	—	—	—
g ひとみしり	***	—	—	—	—
h 後追い	***	*	—	—	—



表1 (続き)

項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
19 困ったときに相談できる人					
1 妻	*	-	*	-	-
2 両親	***	**	***	-	-
3 自分のきょうだい	***	**	-	-	-
4 親戚	*	-	-	-	-
5 友達・知人	***	-	-	**	-
6 幼稚園・保育園の先生	***	-	-	***	***
7 医師	**	-	-	-	**
8 保健所・市町村保健センター・児童相談所等	**	-	-	-	-
9 心理カウンセラー	-	-	-	-	-
10 近所の人	***	-	*	-	**
11 職場の友人	***	***	-	-	***
12 親の会	-	-	-	-	-
13 子どもの友達の親	***	*	-	-	***
14 その他	-	-	-	-	-
15 いない	***	-	*	-	-
20 必要な人・相談機関					
1 学校や幼稚園（保育園）の先生	***	-	-	-	-
2 保健所・市町村保健センターの保健婦	***	-	-	-	-
3 小児科等の医師	***	-	-	-	-
4 公立の児童相談所・教育相談所	-	**	**	-	-
5 心理カウンセラー	***	-	*	-	*
6 民間の子どもの相談機関	***	*	-	-	-
7 職場の相談室	-	-	-	-	***
8 その他	*	-	-	-	-
21 相談機関の開設条件					
1 日曜・祭日に開設している	***	-	-	-	***
2 土曜に開設している	-	-	-	-	***
3 夜6時以降開設している	***	**	-	-	***
4 職場がそのための休みをくれる	-	-	-	-	***
5 とくに条件はない	***	-	-	-	***
6 その他	*	-	-	-	-

表1 (続き)

項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
22 妻と相談に出かけるか	***	-	-	-	*
23 相談を希望する子どもの状態					
1 重い病気	*	*	-	-	-
2 原因不明の病気	***	-	-	-	-
3 理解しにくい行動がある	***	-	**	-	-
4 ひどいくせがある	***	-	-	-	-
5 父親や母親のことをきかない	-	-	-	-	-
6 母親が子育てに悩んでいるとき	***	-	*	-	-
7 その他	-	-	-	-	-
24 これまで活用した育児情報源					
1 育児書	***	-	-	-	-
2 育児雑誌	***	-	***	-	*
3 育児番組 (テレビやラジオ)	***	-	-	-	**
4 育児ビデオ	-	-	-	-	-
5 友人・知人	***	-	*	-	-
6 医師 (小児科医)	***	*	-	-	-
7 保健婦	***	-	-	-	-
8 両親学級・育児学級	***	-	-	-	-
9 祖父母	***	-	***	-	-
10 とくにない	***	-	**	-	-
11 その他	-	-	-	-	-
25 必要な育児情報					
1 病気に関すること	-	-	-	-	-
2 育児・しつけの仕方に関すること	***	-	-	**	-
3 子どもの心に関すること	***	-	-	-	-
4 その他	-	-	-	-	-
26 家庭内で重大事の決定をする人	***	-	-	-	*
27 家庭の雰囲気	-	-	-	-	*
28 妻との気持ちの通じあい	***	-	-	-	-
29 育児についての考え方が妻とちがうとき	***	**	-	*	-
30 乳幼児健診にでかけたこと	***	-	-	***	***
31 育児・子育て教室	***	-	-	-	*

表1 (続き)

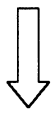
項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
32 子どもの頃、父親が相手をしてくれたか	***	**	*	***	*
33 自分の父親を父親としての手本にしたいか	***	-	-	-	-
34 子どもの頃の自分の母親	**	-	***	-	-
35 両親を自分たち夫婦の手本にしたいか	**	-	-	-	-
36 自分の育った家庭のような家族を築きたいか	***	*	-	-	-
37 妻にしか子どものことはわからないか	*	-	-	-	-
38 自分をもっとも重要と思う役割					
1 夫(妻)	***	-	*	-	***
2 父親(母親)	***	-	-	-	-
3 個人(人間)	***	-	*	-	***
4 職業人	***	-	-	*	***
5 男性(女性)	***	-	**	-	***
39 親が担っていた役割					
1 夫(妻)	***	-	-	-	*
2 父親(母親)	***	-	-	-	-
3 個人(人間)	***	-	-	-	-
4 職業人	***	-	-	-	**
5 男性(女性)	***	-	-	-	-
40 育った家庭の雰囲気					
1 あたたかい	***	*	**	*	*
2 あかるい	***	-	-	-	-
3 きびしい	-	-	-	-	*
4 かたい	-	-	-	-	-
5 にぎやかな	***	-	-	-	-
6 冷たい	-	-	-	-	-
7 やさしい	***	*	-	-	-
8 のんびり	-	*	-	-	-
9 せかせか	-	-	-	-	-
10 冷たい	-	-	-	-	-
11 軽い	**	-	-	-	-
12 暗い	-	-	-	-	-

表1 (続き)

項 目	両親の一致	年 齢		母親の就労	
		父親	母親	父親	母親
13からい	**	-	*	-	-
14うるさい	-	-	-	-	-
15重たい	*	-	*	-	-
16柔らかい	-	-	-	-	-
17その他	-	-	-	-	-
4 1 父親の固有の役割					
1 母親の役割を肩代わり	-	-	-	-	-
2 父親としても育児、家事を果たす	***	-	-	*	***
3 仕事を通して家庭に貢献する	-	-	-	***	***
4 最終決断をくだす	***	-	-	*	***
5 日常生活全般にわたって主導的役割を担う	-	**	**	-	-
6 妻の相談相手になる	***	-	-	*	**
7 子どもの自立の手助け	-	*	-	*	-
8 客観的な立場にたって母子の関係を援助	***	*	-	**	**
9 家庭全体を包むように見守っていく	***	-	-	-	***
10 儀礼的なつきあいをこなす	*	*	-	-	-
11 母子とは距離をおいて冷静な立場で接する	*	*	-	-	-
12 格別のことはしないで自分は自分でやっていく	***	-	-	-	-
13 男らしさを家族に示していく	***	-	-	-	-
14 父親だけの固有の役割はない	-	-	*	-	*
15 その他	*	-	-	-	-



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



#### 目的

本研究の目的は、育児における父親の役割を明確にし、保健指導に適用しうる知見を得ることである。その目的を達成するために、平成4年度から3カ年にわたって、幼児をもつ父母を対象に、質問紙による調査研究を行ってきた。その単純集計結果については、昨年度報告した。本最終報告では、まず第1報(本報告)で、父母の回答の比較、父母の年齢などの属性との関係を検討し、第2報では主要な項目と他の項目との関連についてクロス集計により検討を行った。